

葛塚の名の発祥地！葛塚とともに歩む石動神社



1796（寛政8）年建築の社殿は、2008年に国の登録有形文化財となりました。

祭神 石動大神を主神とする

祭礼 4月12～13日

9月 6～7日

1715（正徳5）年創立と伝わる葛塚で最も古い神社です。長い歴史を伝えるものに、1732（享保17）年の棟札や、1737（元文2）年の検地帳の記載などがあります。また、水原代官 男谷彦四郎思孝の筆による「石動大権現」の額も社殿にかかっています。

秋祭りの9月6日は「正尺の神楽」による舞が奉納されています。

境内には、この神社が葛塚発展の拠りどころとなっていたことを示す石碑があります。石段の左手にあるこの石碑は、葛塚の庄屋 遠藤七郎左衛門国忠（1814～64）が発起人となって1856（安政3）年に建てられました。筆と文は国学者の鈴木重胤（1812～63）です。

内容は、「慶長3（1598）年に加賀から新発田へ移ってきた殿様の家老 溝口某主が加賀の邸内に祭っていた能登の石動大神（石動山の神）をこの地に祭って産土神とした。それ以来、石動大神のおかげで、松ヶ崎を開いて水を海に落とすことなどがたやすく成功して、村ができ、家や人口が増え、市場が盛んでにぎわいのある里となった」というものです。



葛塚の地名誕生にはの2つの伝説があった！

伝説①神社のある小高い丘には、かつて大木があり、葛や藤がその木にからまっていた。そして、人々はこの丘を葛塚と呼んでいたため、領主も村の名前を葛塚にしました。

伝説②この丘の周りが湖だったとき、新発田の殿様が釣りのため、このそばを通ると、丘の大木にツタのようなものが絡まり、多くの白い花を咲かせていました。殿様が供の者たちに花の名前を問うと、供の者が「葛の花でございます」と答えたので、殿様は「あの丘は葛の塚であるな」といわれ、それ以来、葛塚といわれるようになりました。